

高木 悦子 議員（代表質問）

1 新・児童館並びに子ども図書館の運営について

- (1) 新しい児童館の開館予定日、季節・曜日ごとの開館時間、休館日はどうなるのか。また開館に向けて、子どもたちの安全を確立できる職員の配置・確保はできるのか。常時、何人の職員を置くのか。
- (2) 射水市では子どもの帰宅時の安全などを考えて、保護者同伴の利用時間と子どもだけで来館の利用時間を変える配慮をしているが、滑川市における考え方はどうか。
- (3) 現在、子ども図書館では夜7時まで、土日祝日も開館しているが、夕方以降の子どもだけの利用や土日に長時間子どもだけでいるといった、不適正な利用が懸念される様子は見られないか。
- (4) 子ども図書館を充実させて、利用者数や貸し出し冊数などに変化は見られたか。さらに、学校図書館の貸し出し冊数への影響は見られるか。
- (5) 子ども図書館で毎週金曜日に子育て相談会が実施されているが、利用状況はどうか。別に子育て支援センターがあり、来年児童館が完成した場合の保育士の配置など、それぞれの施設の役割分担や、資格者という貴重な人材の有効的な活用を検討しているか。
- (6) 利用者がそれぞれの施設を適確に利用できるように、子ども図書館、児童館、子育て支援センターなどそれぞれの機能・役割を明確にして、類似する事業の整理・集約を行い、限られた人材を有効に活用されたい。

2 地域連携に繋がる土曜授業への転換について

- (1) 土曜授業を導入した目的は何だったのか。2年目を経過して、その目的は達成されているか。
- (2) 文部科学省の土曜授業推進の背景には「学校・家庭・地域の三者連携」や「多様な学習・体験機会の充実」がある。さらには、学校を核として、人づくりや地域づくりを行うことで、地方創生に繋げるという考えも示

しているが、滑川市の土曜授業を、地域連携に繋がるものへと転換していくという考えはないか。

- (3) 例えば「特色ある学校づくり推進事業」が結果として、教育委員会主導となってしまったが、国が補助事業としている「学校支援地域本部」の設置や「地域コーディネーター」の配置など、学校と地域とを結びつける組織作りをする考えはないか。
- (4) 学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切るための「放課後学習支援」や「放課後子ども教室」を、地域人材を生かして、土曜学習として行うことはできないか。

3 事故対応において開かれた学校・教育委員会となっているか

- (1) これまでに総合教育会議は開催されたか。どのようなことが議題として協議されたか。原則公開であり、会議録も公表が努力義務となっているが、対応はどうなっているか。
- (2) 児童が入院を要するほどの学校事故について、保護者からの提訴に至るまで報告・公表が無かったことに対して、教育委員会の対応に違和感を覚える。教育委員会によっては、事故対応マニュアルの中でマスコミも含めた「公表」を前提としているところもある。なぜ公表されなかったのか。その判断を下したのは誰なのか。
- (3) 過去の教育委員会会議録を見ても、学校事故の報告などは見られない。会議録の公表されない懇談会での報告ということで、公にする情報と公にしない情報とを意図的に振り分けているということはないか。
- (4) どれだけ細心の注意をしても、事故は発生するものだ。公表する・しないの境界があることが、現場における事故を秘匿しようとして救急車の要請など誤った判断に結びつく危険性があるのではないか。児童生徒の個人情報も当然除いても、学校事故などの状況や件数については原則公表されるべきではないか。
- (5) 救急車を呼ぶ基準など、対応に当たる教師によって判断にバラつきが無いように、統一した事故対応マニュアルを作成し、公表すべきではないか。

4 定住促進住宅の空室について

- (1) 駅前住宅からの転居を行ったサンコーポラス上小泉を除いて、吾妻・北野ともに過半数が空き家の状態になっている。購入前の取り壊し費用を含めた採算に関するシミュレーションは、現実性が乏しいものということが明らかになったが、入居率の目標達成に努力することは当然のこととして、3カ所から2カ所への集約、あるいは家賃の引き下げなどを検討する考えはあるか。
- (2) ふるさと納税も、返礼品とポータルサイトへの登録がきっかけで寄付者の増大に繋がっている。定住促進住宅についても、市内の不動産業者を利用したり、インターネットの情報提供サイトを活用したりするなど市外・県外に居住する人に定住促進住宅の存在をアピールすべきではないか。

5 市有地の活用について

- ・ 購入予定の中滑川駅前の農協会館跡地、そして今後取り壊しが予定されている駅前団地跡地は、既存の駅からの利便性も高く、今後の活用について市民の関心は高い。

一方で、都市計画マスタープラン作成のための、市民アンケートによれば、アウトドア施設の充実について文化に触れあう機会や場が充足されていないという回答になっており、文化に触れる機会と場の充実の必要性が認められている。長年にわたって文化会館建設基金を積み立ててきた経緯もある。

文化施設はスポーツ施設と異なり、高齢者や障がい者の方々の利便性も確保すべきと考えれば、公共交通機関の利用が可能な場所に設置されるべきと考えるため、農協会館跡地での文化会館の建設を以前も提言した。

これら市有地の活用について、どのような計画があるのか。

まだ計画が定まっていなれば、農協会館跡地並びに駅前団地跡地の今後の活用について、どのような組織・経過で検討をしていくのか。

古沢 利之 議員（代表質問）

1 TPPについて

- (1) 「大筋合意」についての見解を問う
- (2) 11月15日付「北日本新聞」報道の首長調査について「回答なし」とされたのはなぜか。

2 日本海地震・津波調査について

- ・ 日本海地震・津波調査の一部が公表された。防災計画の見直しに向けた取り組みをどうするか。

3 市民の健康づくり

- ・ 協会けんぽとの連携について、報道では砺波市が協会けんぽとの健康づくり包括協定を結んだとされる。当市から働きかける考えはないか。

4 松くい虫被害対策について

- (1) 海岸等での伐倒処理が進められてきたが、その後も被害がみられる。その後の対策について。
- (2) 保安林の機能維持等、伐倒後に植樹等の対策が必要だと考えるがどうか。

竹原 正人 議員（一般質問）

1 滑川市ひと・まち・産業創生総合戦略について

(1) 「ひと」が元気について

- ア 将来人口の確保のため、人口減社会にどう取り組んでいくのか。
- イ 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援を施策として挙げているが、時代のニーズに合わせ、さまざまな角度から検証をした上の、新規の具体的な支援策は。
- ウ 多世帯同居、近居住まいの推進とあるが、具体的な内容と見込める効果は。

(2) 「まち」が元気について

- ア 空き地・空き家の対策と利活用とあるが、今後増え続ける空き家を、どう対処していくのか。
- イ 定住促進住宅の整備・運営について、入居率の向上を目標としているが具体的な対策は。
- ウ 北陸新幹線が開業し、車窓から見える滑川市らしい観光看板の設置を要望していたが、現在の見解は。また、景観を楽しむため、広い面積で菜の花やチューリップなどを栽培するなど、見る人や生産者が喜ぶ事業はできないか。

2 子どもたちの学力・体力の向上について

- (1) 「特色ある学校づくり推進事業」の内容とその効果、そして今後の課題は。
- (2) 土曜学習モデル事業の本年の取り組みの検証は。保護者向けのアンケートをどのように反映していくのか。
- (3) 学校部活動における、外部コーチや支援員の拡充についてどのように考えているのか。

原 明 議員(一般質問)

1 (仮称)中滑川駅前整備事業の用地 取得後の利用・整備計画について

2 北陸新幹線による騒音と振動被害 等について

- (1) 鉄道運輸機構が実施した騒音・振動測定結果について
- (2) 騒音・振動等の苦情・相談の状況について

3 教育の向上について

- (1) 北加積小学校教育施設整備について
- (2) 校内電話の設置について
- (3) 外部トイレの整備について

4 農業の振興について

- (1) 農地中間管理機構(農地集積バンク)の状況について
- (2) 有害鳥獣対策について

浦田 竹昭 議員（一般質問）

1 みのお温泉の利活用計画について

- (1) みのお温泉の利活用計画の進捗について、東部山麓道路整備の関連を含めての见解は。
- (2) 施設全体の具体的な見直しについて。例えば、エレベーターの設置予定、グリーンハウスの全面改装、テニスコートの照明設備の更新、並びに全天候ハウスの設置について等。
- (3) 利用者増加への対策として、具体的な見直しについて。例えば、送迎用のマイクロバスの配備、テニスサークルの宿泊合宿、並びにテニス大会や研修会等のイベント企画による宿泊合宿の営業活動等。

2 東福寺野自然公園の利活用計画について

- (1) 東福寺野自然公園の利活用計画の策定の必要性について
- (2) 施設整備として、青雲閣を含めた施設整備の見直し、パークゴルフ場の増設等について
- (3) 利用者増加への検討として、子どもたちの宿泊体験学習、文化・スポーツサークルの合宿等、その企画とPR・営業、並びに東福寺野自然公園と護摩堂・蓑輪城を經由してのみのお温泉間の散策ルートの整備と普及等について

3 有害鳥獣被害の防止対策について

- (1) 有害鳥獣被害の実績と防止対策の現状について
- (2) 今後の有害鳥獣被害の防止対策として、捕獲体制の増強、捕獲檻の増設設置、監視カメラの設置等の検討について

4 耕作放棄地の解消対策について

- (1) 耕作放棄地の実績と解消対策の現状について
- (2) 今後の耕作放棄地の解消対策として、パトロールの実施、指導等の充実、補助制度、並びに規制の検討について

5 防犯カメラの設置について

- (1) 防犯カメラの設置の現状について
- (2) 公共施設や人が集まる施設、広域的な幹線道路等の防犯カメラの設置について

開田 晃江 議員（一般質問）

1 学校の安全対策について

- (1) 滑川市の各小学校の集団下校の取り組みはどのような状況か。
- (2) 下校時の施錠は誰がどのようにしているか。
- (3) 救急車を呼ぶマニュアルを学校に配布してあるか。
- (4) 教室以外の授業には補助員を。
- (5) 2つの中学校区に二人体制で過去の校長経験者をアドバイザーというポストを設けて派遣をしてはどうか。新採の先生方の指導と新しく校長先生になられた先生に地域の特徴や、歴史・文化など伝えなくてはならないことが多い。指導体制の確立のため検討できないか。

2 まちの活性化について

- ・ 人口減少社会における交流人口の増大をどのように考えるか。
 - ア 市は、人口減少、少子高齢化を克服するため、「滑川市ひと・まち・産業（しごと）創生総合戦略」をとりまとめ発表した。まちの魅力をアップして交流人口の増加を図るとしている。そこで、現在どの程度の交流人口がどのルートで来られているのか教えてほしい。
 - イ 国道8号線が今年度完成見込みということであり、稲泉交差点はまさに滑川市の顔としての交差点になるのではないかと期待している。将来的には交差点形状が変わるかも知れないが、それも見越した上で、滑川市の魅力をより一層発信するため、この稲泉交差点を市の重要な交通拠点と位置づけ、これに接続して市の観光、産業、歴史、文化、生活の情報を発信する拠点を整備することはどうだろうか。例えば新湊の道の駅のようなものがイメージされる。もちろん、ウェーブパークなめりかわがあることから、道の駅が二つになるが、ウェーブパークなめりかわと機能を分担することにより、相乗効果を生み出すことも考えられる。新たな拠点整備はどうか見解を問う。
 - ウ 交流人口の増加のために企業誘致を。災害の少ない滑川市をPRしては。

3 ふるさと納税について

- (1) 今定例会でふるさと納税の返礼品として補正予算が提出されているが、納税額はどのように推移しているか。
- (2) 滑川市の特産品でどのようなものをお返ししているか、また何が一番人気か。

水野 達夫 議員（一般質問）

1 中滑川駅周辺の整備計画について

- (1) 田中新町町内会から提出されている要望書の3点について、今後の整備計画にどのような形で反映されるのか。
- (2) 公共施設を核とした整備計画になるのか、それとも民間の力をお借りした整備計画になるのか、現段階での市の見解はどうか。
- (3) 今回の用地取得は、藤井歯科医院跡地も含んだ計画である。中滑川駅前広場のロータリーと隣接する市道との車の流れを考えると、「環状交差点」の導入を検討できないか。

2 道の駅ウェーブパークなめりかわ周辺の今後の方向性について

- (1) 今、観光協会の事務所を道の駅休憩施設へ移転する理由は何なのか。
- (2) 道の駅休憩施設が今後、ほたるいか海上観光の受付集合場所になると聞いているが、観光客をおもてなしできる空間だと思われるか。また、観光客等交流人口を増大するには観光船を2隻体制に戻すべきだと思うがどうか。
- (3) 道の駅ウェーブパークなめりかわ周辺は観光ゾーンとして位置付けるべきであると思う。その意味で、タラソピアは廃止の方向で早急に結論を出すべきだと思うがどうか。
- (4) 滑川市海洋深層水利活用基本計画(H14.1)によれば、産業振興分野への利活用が取水量の約半分を占めている。深層水が取水できる沿線の土地で、水産分野等産業振興への利活用を推進する意味において、例えば、水産振興補助金制度等を定める考えはないか。

3 中小企業の支援について

- (1) 高齢者や心身障害者に対する雇用奨励金等の過去3カ年の実績はどうか。

- (2) 中小企業への支援策として、魚津市や入善町で実施されている新規創業や経営革新に対する補助制度を設けることはできないか。

4 職員の採用計画について

- (1) 第6次滑川市行政改革大綱(H27.3)に記載されている「適正な職員数」に対する市の見解はどうか。
- (2) 行革大綱実施計画に記載されている「新しい手法による人材の確保」に関して、現時点での検討状況はどうか。

青山 幸生 議員（一般質問）

1 安心・安全なまちづくりについて

- (1) 各地区で救急医療情報キットを実施しているがその目的は。
- (2) 救急隊員の救急医療情報キットの活用状況はどうか。
- (3) 平成 27 年 6 月定例会で 5 段階の避難指示表を提案したが、その後の進捗はどうか。

2 人口増加に向けて

- (1) 滑川市ひと・まち・しごと創生総合戦略の「産業」が元気について、地場産業の特化、筋肉質化とあるが具体的にどのような内容か。
- (2) 滑川市ひと・まち・しごと創生総合戦略の「産業」が元気について、6次産業化支援とあるが具体的にどのような内容か。
- (3) 平成 26 年 12 月定例会で人口増加について 4 つ提案したが、その後の進捗状況はどうか。
- (4) 滑川市ひと・まち・しごと創生総合戦略の人口の将来展望について、合計特殊出生率 2.07 は可能か。

3 タラソピアについて

- (1) 平成 27 年 9 月定例会では、今後のタラソピアは健康福祉施設にリニューアルするとの答弁であったが、今もその計画か。
- (2) 現在までのリラクゼーション施設のコンセプトと健康福祉施設のコンセプトの違いはどうか。
- (3) 現在までのリラクゼーション施設のお客層ターゲット層と健康福祉施設のお客層ターゲット層の違いはどうか。
- (4) ほたるいかミュージアム周辺は観光拠点であり、健康福祉施設は立地的に不自然と考えるがどうか。

谷川 伸治 議員（一般質問）

1 タラソピアの今後のあり方について

- (1) 公共施設のあり方検討特別委員会の提言に基づき、タラソピアの存続についてどのように考えているのか。
- (2) 介護予防や健康増進に特化したコンパクトな施設として新たに建設することはできないか。

2 地区公民館の活用について

- (1) 地区公民館には福祉センターの看板がかかっているが、どのような活動をしているのか（浜加積地区福祉センター以外）。
- (2) 放課後児童育成クラブについて
 - ア 今後とも地区公民館を活用していく考えか。
 - イ 学校の空き教室の活用は検討できないか。
 - ウ 地区公民館を利用している児童は、放課後子ども教室に参加できているのか。
- (3) 地区公民館に地域包括支援センターの機能を持たせ、地域に根ざした拠点として活用していく考えはないか。
- (4) 地区公民館関係者の処遇改善について、公民館東海北陸ブロック大会等県外で開催される場合の交通費を当局で予算化できないか。

尾崎 照雄 議員（一般質問）

1 子育て支援について

- ・ 滑川版ネウボラについて
 - ア 現在の進捗状況について
 - イ 今後の子育て支援包括センターの設置について

2 教育環境について

- (1) 「子ども第一主義」について市長の見解を問う。
- (2) 小学校における食育について教育長の見解を問う。
- (3) 理科室での調理実習の改善について

3 防災について

- ・ 高塚周辺の寄り回り波対策としての消波ブロックの設置について

角川 真人 議員（一般質問）

1 介護保険について

- (1) 介護報酬の引き下げによる影響はどうか。実態の把握をできているか。
- (2) 介護職員の不足が問題となっている。滑川には富山医療福祉専門学校があるのだから、若い職員を増やすためにも市として何か協力することはできないか。

2 交通安全について

- ・ はまなす公園付近には街灯が少なく、早朝に人が歩いていても見えづらい。街灯か歩道灯を検討してはどうか。

3 買い物対策について

- (1) 高齢者だけの世帯の家など、交通手段が乏しい家も増えている。移動販売所を検討してはどうか。
- (2) コミュニティバスではルートが決まっているため、目的地に向かうために遠回りになるとさけている人もいる。デマンド型乗り合いタクシーも検討してみてもどうか。

